

## <パールレース 2016・レポート>

### Fortaleza II Kato

高校2年からクルーザーを始めた少年は3年生の夏、クルージング帰りにパールレースのスタートを見に行った。鳥羽沖をスピンを上げて一斉にスタートして行くレース艇。すると仲間の1艇が戻ってくる。「リコールしちゃった」再びスピンを上げレース艇団を追う。目指すは相模湾。ヨットのメッカだ。いったいそこはどんな所なんだろう。どんなヨットが走っているんだろう。行ってみたい相模湾。小さくなっていくスピンを見送りながらそんなことを考えていた・・・。

それから40年。

純真だった少年はすっかり汚れ果てたメタボおやじになっていた。

2016年7月29日(金)宿で凍らしてもらった水とコンビニで凍らせてもらった水とスポーツ飲料、大量の食料を積み込み、喫水線がドカンと深くなったフォルタレーザは五カ所湾・志摩ヨットハーバーの舫いを解いた。次に舫いをとるのはホームポート・シーボニアであって欲しい。天気は快晴南東の風3~4m。第57回パールレースのスタートだ。今回エントリーは51艇。フォルタレーザはIRC-Cクラス12艇で競う。レーティング的には6番目。つまり後ろに6艇いなければ負けである。スタート海面には1時間以上前に着き、新調したメインセールやジブを上げブロックの位置などを確認する。スタートの作戦はいつものとおり大型艇のブランケに入らないように3~4列目でもいいから上1から出る。

今回のメンバーはカトー、G、Isoのフォルタレーザメンバーに、トランス相模などいつも乗ってくれているM、Y、T、Iの計7名。スタートはカトーが舵を持つ。普段ダブルハンドやシングルハンドレース以外では舵を持つことはないが、前夜のミーティングで自分が持つと宣言した。個人的な感傷で申し訳ないが40年かけてここまで来たんだとパールを実感したかったからだ。スタートさえしてしまえばもう私の仕事は半分終わったようなもの。あとは無事に帰ればいい。準備を始めたのは4月。メンバーも決まらず後手後手に回り、IRCレーティングも臨時船検もギリギリで間に合い、カテゴリー3備品、宿、食料な

どスタート1週間を切ってもバタバタしていた。スタートできただけでも万々歳である。



スタート10分前、本部船の上でスタンバイ。しかし5分を切ったところで他艇につられてスタートラインに近づきすぎて、大型艇の列の壁で強烈なブランクを受け、タックしたくても艇が止まってできず、やっとタックしスタートラインを切れたのはスタートから2分30秒

後であった。それでも長丁場集中してポートの沖出しコースを走っていると、後ろに4~5艇いるではないか。参加最小艇でもこの風域3~4mの上りならフォルタレーザの風だ。重い大型艇を喰える！風の予報は2日間南東の軽風。3日目に北に振れてブローで10m。つまり全行程すべて上りのレースが予想される。

レース艇団はスタボーをのぼし布施田水道の南をギリギリでかわすコースと、我々のように一度南に出して安全に布施田水道の沖を通るコースに分かれた。バリバリのレース艇は皆スタボーのぼしのギリギリコースを選択している。みんなパールの常連なのだろう。暗礁も多く定置もあるスタボーコースはととても怖くて引けない。南へ沖出しするコースも途中水深2~3mの根があり、近くに寄ると波立っていて注意が必要だ。スタートして2時間半、やっと布施田水道沖の根を越えたところで舵交代。夜に備えて睡眠に入る。

今回軽風の長丁場3日間のレースが予想されたのでワッチを組むことにした。ナビゲーター・ロールコールの担当のY氏を除き6人がペアを組み、初日の17時から基本3時間交代でワッチに入る。ペアのうちどちらかはデッキにすることが大雑把な決まり。

スタートの緊張から爆睡したカトーがノソノソと起きて来た時にはもう大王崎を過ぎていた。確か回航の時も夜寝ていて大王崎を見ていない。なぜか艇の上ではよく眠れる。そしてそれはレース期間中3日間続いた。艇団はバラけ速

い艇はもう船影さえ見えない。



18時57分。間もなく日没、南東の風3~4m。戦況はかなり後ろに4艇。左右に2艇。6艇のうち1艇はダブルハンド艇と予想される。キャビンの中を何気に覗き込むとワッチオフの人達が3人仲良くサンドイッチを作っている。全くレース中とは思えない和やかな雰囲気、クルージングの楽しいひとコマのような光景だ。

それくらい初日は風波とも穏やかに安定していた。

そしてレース最初の夜が訪れる。回航の時の遠州灘は雨で、どこからが海でどこからが空かわからないほどの漆黒の闇であったが、今日は浜松や名古屋の街の灯が雲に照らされてボンヤリと明るい。Iso氏が100円ショップで購入して来たテルテール用ライトはエリアが絞れる実に優れものだ。しかも100円なのでなくしてもショックは少ない。事実レース中1個は海に消えた。

やがて本格的に夜を迎えると南の水平線にサソリ座が現れた。そして天の川。天の川の頂点には白鳥座が。そういえばパール用のナイトセーリング練習の時も天の川がきれいだった。風が弱いので下でヒールをつけてくれと言われ、北側に移動すると北斗七星や北極星、カシオペア座が見えてくる。Tが出て来て星のウンチクを語る「サソリ座が出ている時はオリオン座は見えない。神話でオリオンを刺したのがサソリなので、サソリ座が出てくるとオリオンは隠れるのだ」とか「昴星雲の星が何個見えるかで視力検査ができる」などなど。くそ〜、俺も星のウンチクを知っていれば得意げに話せたのに……。この日の星空は本当にきれいだった。まるで宝石箱をひっくり返したような賑わいだ。時に星が糸で吊り下げられてるんじゃないかと思えるほど近くで光っている。そしてその夜空にいやというほど流れ星が降っている。こんなに流れ星って流れてるんだ……。夜が暗ければ星が見える。ここは遠州灘、陸地からはかなり離れている。

しばらく星空の中をセーリングしていると航海灯が急に消えた。船尾灯もマス

ト灯も。全部消えたということはヒューズ？キャビンライトもつかない。どうもバッテリーの電圧が下がったようだ。スターター用のバッテリーを ON にしてエンジン始動。充電を始めると航海灯がついた。常に艇のシガレットジャックは GPS ロガーと通信用の携帯などが充電されているが、それくらいでバッテリーがあがるとは思えない。昨年エンジンが故障したときバッテリーも空になったからもう寿命かもしれない。今回ルールで充電用のエンジン始動は許可されているが、セーリングしながらエンジンを回しているのは何か変な気分だ。ワッチ時間が過ぎたのでまた爆睡。

寝ていると 0 時頃いきなりのタックに起きる。デッキからは「タックするよ」と声をかけたらしいが、クォーターバースで寝ていて隣でエンジンが回っているので気づくはずがない。クォーターバースはダブルバースになっていてゴロゴロと転がり寝床は風上になってしまった。安眠妨害！スベリ落ちないように体を突っ張りながら寝る。あとで聞いたところ浜松沖でヘッダーを受けてタックしたようだ。今回運営が応援情報として航路気象のサービスをしてくれた。位置ポイントを入れると最速の航路を出してくれる。それによるとスタボーをのぼして浜松沖に向かい、遠州灘から駿河湾沖を反時計に回る海流に乗せてタックするのが最善コースと出る。でもこの情報全艇が共有しているのであまり戦略的には意味はない。その場の状況に合わせてヘッダーや潮でコースを引く方がよさそうだ。

2 時。ワッチ時間を 3 時間過ぎて起床、交代する。相方の Iso 氏は 6 時間代わりにワッチしてくれた。ありがたい。4 時 30 分、富士山の輪郭が見えて来た。そろそろ天体ショーとはお別れの時間だ。5 時朝日を迎える。レース初めての朝日だ。波も穏やか、軽風の上りだとほとんど何もすることがない。5 時 30 分御前崎沖を通過して再び爆睡。

7 時 30 分起きるとすぐ隣にヤマハ 31「MISTRAL 4」が？！レーティングで我々の方が 1 艇上だ。負けてはいけない艇である。ひと晩走って来たのにこんなに近くにレース艇がいるなんて何か不思議な感じ。10 時 30 分、タックしてバウを伊豆半島方面に向ける。前に 2 艇、あとはバラけてわからない。12 時神子元島視認。スタート後 25 時間ぶりに再び舵を持つ。だんだん近づいてくる伊豆半

島石廊崎。石廊崎はトランス相模の前哨戦・石廊崎レースでおなじみの地。まだまだ行程は長いが何か帰って来た気がする。

14時36分「ハナミズキ」の高山さんが浦賀から「ローンスター」で応援に来てくれた。「ビールが欲しい！」と言う者もいるがレース中なので他艇からの援助は受けられない。「ならローンスターが落としちゃったということで、たまたま漂流物をひろったらビールだったということにしたら・・・」などアイデアが飛ぶがいっさい無視。写真を撮り合い激励を受けあつという間に消えて行った。凄いなジェットエンジン。浦賀から3時間くらいで来ちゃうのかな？来る途中「TREKKEE」と大島近くですれ違ったと言っていたからトップ艇団は今日中にフニッシュできるだろう。一方こちらは明日に備えて腹ごしらえ。流水麺を洗って揚げ玉やネギ、竹輪でお昼ご飯。今回お湯も沸かさない予定だったので、この流水麺は本当に重宝した。

15時28分石廊崎沖通過。タックしいよいよ利島へのアプローチを始める。はじめバウは新島に向かっていたが徐々に風が北に回り始め、そのまま利島に一本で向かえそうな角度になっていく。そして2度目の日没がやってくる。パール経験者がナイトを2人で交代して舵を持つナイトレンジャーを申し出てくれたが、利島回航は潮が速く夜で暗礁もあるため、無理を言って自分で舵を持つことにした。キャリアや急な対処等ナイトレンジャーたちの方が操船は数段上だが、ここはメンバーである自分がやっておかないといけないと思った。昨年諸磯の「ウレカ」に乗せてもらいクルージングで利島～鵜渡根島の間をセー



リングさせて頂いた。その時、来年はここをパールで通過すると決めていたのでよく観察した。鵜渡根島寄りには磯が多く潮が速い。鵜渡根島と利島の真ん中より利島寄りを回った方がいい。そしてできれば明るいうちに回りたいとも。しかし現実には夜。利島の南側の灯台は小さく見えづらい。3台のGPSのうちチャー

トが入っている1台を担当するT氏のコース引きだけが頼りである。風は北東に振れたため利島まではノータックでアプローチできた。いよいよ海峡にさしかかる。風速が上がって来た。日曜日に吹くブロー10mがすでに始まったのか

メインの風を逃がさないとオーバーヒールしてしまう。今回のために購入したサーチライトが暗礁を探す。テルテールライトは目に入りワッチの邪魔なので消す。方向はコンパスではなく、利島を越えた向こう側水平線に光る星を頼りに進む。と、島の吹き下ろしのブローが！艇は切り上がり、危うく風に立ちそうになる。利島に吸い寄せられたらおしまいだ。西が吹くと大島の東の吹き下ろしは非常に厳しい。その同じ恐怖が利島に重なって現実以上の恐怖を駆り立てる。緊張感はMAXだ。すると前方100m位のところにいきなりレース艇が出現！！利島にへばりつくようにして吹き下ろしを避けているのか？さらに利島を抜けた先にもう1艇レース艇が！！なぜ今まで見えなかったのにこんな近くに2艇も？

利島を抜けたのは20時56分。ロールコールをしたY氏から「朗報です。まだ利島を回っていない艇が後ろに9艇います」と。実際の吹き下ろしは明るければそんなに強い風ではなかったが、暗闇でブローラインが見えないため恐怖は倍増させられる。わかりやすく言うと明るいお化け屋敷はそんなに怖くないが、真っ暗だとコンニャクでもビビると言うことだ。利島を回ってタックシバウが相模湾に向いたところで舵を交代。あとはナイトレンジャーに託してまたまた爆睡。

夜中大島の横でタックタックがあり、接戦でマッチレースでもしているのかと思いつつもまだまだ爆睡。明け方起きて大島や伊豆半島、初島が目に入ると「ああ、相模湾に帰って来たんだなあ〜」と実感する。かつては初島ダブルでさえロングの大冒険だと思っていたのに。40年前憧れていた相模湾は今、贅沢にもホームゲレンデと嘯く。

相模湾に入ったということは、レースはいよいよ終盤戦、江ノ島へのアプローチ最後の詰めである。3日間走ってきたのに回りを見渡せばレース艇がそこかしこに見える。もしかすると月イチのクラブレースより抜きつ抜かれつの接戦を繰り返しているのかもしれない。波に叩かれなければフォルタレーザは上り角度がいい。他艇はやや落としてスピード重視で下を抜いていく。タックを返して来た時、角度とスピードのどちらが勝ったかという争いを3日間繰り返してきたようなものだ。果たしてフィニッシュラインで笑うのはどちらの艇

か？

江ノ島フィニッシュは最後の難所だ。フィニッシュラインの前にはどーんと定置網が構えている。通常夏は南風のスピランでまっすぐ突っ込めばいいと思っていたが、風は江ノ島から吹いてくる。タックタックで刻んで走る必要があるかもしれない。ナイト練習の時、江ノ島の定置網の位置はGPSに入力してあったので、Iso氏のナビ通りアプローチ。しかし定置は動かないが日曜日の江ノ島はディンギーがゴチャマンという。もう無秩序にいる。誰もレース艇にかまっちゃくれない。「学連の470避けて！」「レーザーがチンしてる！」まるで障害物競走だ。風も8m ジェノアにフルメイン。予報通りブローで10m近く吹いている。NO.3にチェンジしておけば・・・ファーラー巻こうか？と進言するも大丈夫と。そして最後のアプローチ、江ノ島岸壁前で風が北に振れそのまま入れないのでタックを返してフィニッシュ！ 9時53分33秒、Cクラス12艇中4着で無事180マイルを完走フィニッシュすることができた。

すぐにレース報告書を書いてGPSロガーとともに運営船に渡す。

成績はIRC-Cクラス 12艇中4着 修正5位。IRC-TOTAL 47艇中37位。気にしていたレーティングはPASTAIMEのレーティングで計算しても順位は変わらず。ほぼレーティング通りの成績（レーティング6番目だったので1艇分頑張った！）でした。

終わっての感想

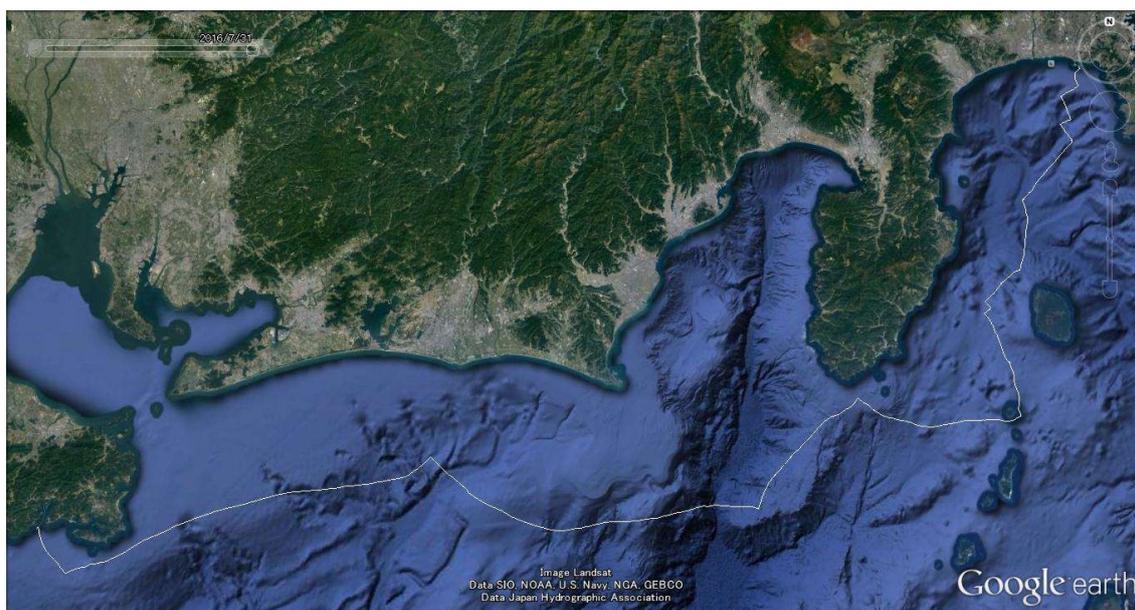
今回のレースは全行程上りで、スピンはおろかセールチェンジもなく、ダブルハンドでも十分安全に航行できるレースでした。そして3~4mの上りはフォルタレーザが最も得意とする風域だったので善戦できたと思います。心配された最後尾で大型艇を追ってただ1艇ポツンと走る状況には一度もならず、レーティング通りの位置で走れました。

準備に関して初参加は結構大変でした。宿、食料、回航、レーティング、臨検、カテゴリー3、練習、整備などなど今回いっぱい勉強させて頂きました。コンビニの買い物ひとつでも3日前に予約しておかなければ買えないなど、参加し

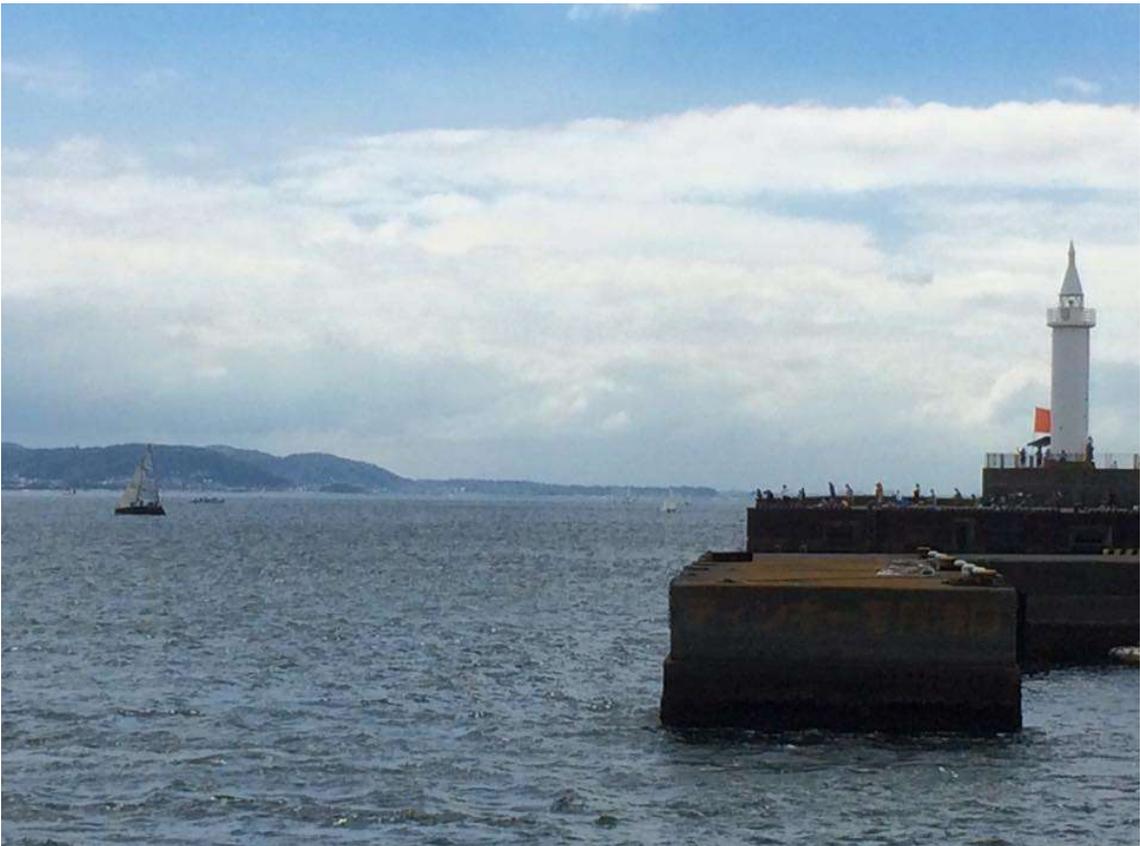
なければわからないことがいっぱいありました。もし次参加するなら1年前から準備し、最低半年前には乗員も決めて準備・練習したいと思います。今回は天候に恵まれラッキーでしたが本来のパールはこんなものじゃないと思っています。パールレースはイオロス 26 が出られる最長のレース、また機会があればしっかり準備と練習をして参加したいと思います。

最後に、衛星電話を貸して頂いた T さん、燃料タンクを貸して頂いたシャーク関根さん、IRC の手続きに長い電話相談に付き合ってくれた横山さん、レーティングの証書やアドバイスをしてくださった PASTAIME の飯田さん、そして何より早く送り出してくださった紀久子オーナーとフォルタレーザの仲間たちに感謝したいと思います。

フォルタレーザ カトー











6515	残航	マイル	着順	3:13:17		<input type="checkbox"/> 無し	No.
LIBERTY VII	02:09:						<input checked="" type="checkbox"/> 東
6588	残航	マイル	着順	18	内海	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 湘
THUNDER BIRD II	23:51:			07:22:06		<input type="checkbox"/> 無し	No.
6602	残航	マイル	着順		近北	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 東
CAMARADERS	:	:		10:03:07		<input type="checkbox"/> 無し	No.
6626	残航	マイル	着順		湘南	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 東
SAYUTO	4:07:			4:37:59		<input checked="" type="checkbox"/> 無し	No.
6643	残航	マイル	着順	31	東海	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	<input checked="" type="checkbox"/> 湘
FUCHUR 2	19:44:			20:11:54		<input type="checkbox"/> 無し	No. (1)
6687	残航	マイル	着順	3	湘南	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 東
JOKER	05:05:			05:45:06		<input type="checkbox"/> 無し	No. (1)
6737	残航	マイル	着順		三浦	<input type="checkbox"/> 有り	<input type="checkbox"/> 東
ASUNARO	9:24:			09:53:33		<input checked="" type="checkbox"/> 無し	No. (1)
6740	残航	マイル	着順				<input type="checkbox"/> 東
FORTALEZA II							<input type="checkbox"/> 湘